

第105回 令和7年10月17日（金）

「読むことや書くことについて。」

他の学校の校長から「良く毎日書けますね。」とか「書くのは大変じゃないですか」と言われます。私はあまり苦になりません。なぜなら毎日会話することを字にしているだけだからです。

私は頭に浮かんだ言葉を「話す」のも「文章にする」のも同じだと思っています。ネタ集めは「聞く」こと、「見る」こと、「読む」こと。大事なのはこちらかもしれません。

小さいころから本を読むのが大好きで、本が読めなくなるまでにあと何冊読めるかなと考えています。本を買うことは躊躇しないので、家には未読の本がたくさんあります。それを見ると嬉しくなります。未読本のストックがなくなると不安になります。

「読む」のあとには「内容を解釈する」、「自分なりに咀嚼する」という工程を経て、このような言葉や文章にします。いまのところ文章を作るスピードはAIとそんなに差がないと自負しています。

生まれた時からスマホがある世代は「解釈された内容」と「他人が咀嚼した情報」がネットで提供されます。これが将来国語力にどのような影響を与えるのかわかりません。

さらに次の世代は文章を作ることもAIが担うようになると思います。確かに便利ですが脳に与える影響が良いとは思えません。

政治家の外交でも、企業のプレゼンでも、話すということは自分の知識を頭の中で組み立てて相手に伝わりやすく文章化する作業です。この力が低下することが武力による解決をまねくような気がします。

切り付け事件が頻発しています。もしかしたら昔は町で口論していたケースで、言葉が出なくなっているのかもしれません。

口げんかが良いものとは思いませんが、暴力を避けるため一定の効果があるのだとしたら、近い将来「何でこんなことで相手に暴力をふるってしまうの？」と思う事件が増えてしまうのかもしれない。

AI時代を否定はしません。しかしICTは自分の能力の補助であるべきです。政治家が自分のAIに発言をさせているのを見ると、政治家がAIを使っているのかAIに政治家が使われているのか、少しSFのようなことを考えて不安になることがあります。